

保育者養成校（短期大学）と付属幼稚園との連携による 幼児教育現場での幼児体育Ⅰの実施

——第2報 プログラムの学習効果——

木村 達志・石山 由美・松永 有三

Infant Physical Education in Early Childhood Education (in Cooperation with the Attached kindergarten and Early Childhood Education Teacher Training),
Second Report: The Learning Effects of the Program

Tatsushi KIMURA, Yumi ISHIYAMA and Yuzo MATSUNAGA

Ⅰ. は じ め に

「幼児体育Ⅰ・Ⅱ」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分等では体育にあたり、安田女子短期大学保育科（以下、当科）では、1年次前期および後期にそれぞれ30時間1単位で開講している。また、児童福祉法施行規則6条の2第1項3号による教科目・区分等では保育の表現技術にあたり、教職必修および資格必修科目である。さらに、当科では当該科目を卒業必修科目に指定している。このように重要な科目であるが、大学へ入学したばかりの1年生に対して、当該科目に対する動機づけを図ることは容易ではない。また、学習効果という点でも、教壇経験がない受講生へ指導者の視点をどのように培わせるかは、教科担当者（筆者ら）として長年苦勞してきた。村石ら¹⁾は、大学3年次の基礎実習時点（学芸大付属幼稚園での教育実習）で、同じプログラムに基づく指導を受けても、3週間の実習中に学びの変化がほとんどみられない学生の存在を指摘している。

また、1997年の教員養成審議会第一次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」²⁾では、「生きた幼児・児童・生徒観、教育観を身に付けるためには、子どもたちと実際にふれあったり、子どもたちの様子を観察する機会が大切である。教育実習はもとより選択科目や課外における諸活動を通じ、このような機会が少しでも多く教員を志願する者に提供されることが望まれる。」と記載されている。さらに、2005年の中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について—子どもの最善の利益のために幼児教育を考える—」³⁾の中で、第2章第1節第3項の幼稚園教員の資質及び専門性の向上(1) 幼稚園教員の養成・採用・研修等の改善では、「教員志望者自身が多様な知識や豊かな体験を得ること、また、養成段階においても一般教育科目の取得のみならず、インターンシップ（就業体験）等、幼稚園現場での実践を経験することが重要である。」「人事交流や合同研修等が幼稚園教員の資質向上に好影響を与えると考えられるため、小学校教員など他校種の教員や保育所保育士との人事交流、合同研修を推進する必要がある。」と記載されている。高橋ら^{4), 5)}は、保育者養成校である大学と教育現場である幼稚園が、お互いに連絡を密にして教員養成に取り組むことの重要性について

述べている。

以上のように、保育者養成校と教育現場が連携し、片や学生の実践力の向上、片や幼稚園教員の資質の向上を目指すことは必須であると思われる。

そこで、本研究は、当科で開講している授業科目「幼児体育Ⅰ」の一部を、安田女子大学付属幼稚園（以下、付属幼稚園）と緊密な連携を取りながら幼児教育現場で実施することにより、受講生の学習効果や受講生が保育者（幼稚園教諭や保育園などの保育士の総称）を目指す動機づけにどのような影響を与えるか調査することである。なお、当科では、本年より学園内の人事交流により、保育者養成校と教育現場がより緊密に連携する環境が整った。付属幼稚園での幼児体育Ⅰの実践に関するプログラム実現化までのプロセスについては、同報告の第1報に記載する。

Ⅱ．研究の対象と方法

1. 対象

上記の研究目的を達成するため、2012年度前期当科における「幼児体育Ⅰ」の全受講者148名を対象とした。

2. 方法

図1、2へアンケート調査票を示した。アンケート調査は、付属幼稚園で授業を実施する前後で2回行った。実施前の調査は付属幼稚園で授業を実施する1週前に、実施後の調査は当該授業終了直後に行った。アンケート調査にあたり、対象者へは調査の意義、回答することに対する不利益はない事、個人名が公表されることはない事などを口頭で説明し、研究参加への同意を得た。回収率は、授業実施前が100%、実施後は99.3%であった。

学級番号 ()

このアンケートは、大学付属幼稚園で授業を実施するにあたり、皆さんの考えなどをお聞きし今後の授業に役立てようとするものです。回答する事による不利益は全くありません。思うところを素直に回答してください。

Q1 今までに幼稚園へ行った事がありますか？当てはまるものに○をつけてください。

1. 行った事がない 2. 職場体験（中学校・高校）で行った事がある 3. その他 ()

Q2 次の設問について、あなたはどうのように思っていますか。当てはまる番号(4～1)を○をつけて下さい。

	4…とても思う	3…思う	2…あまり思わない	1…全く思わない
1. 実習へ行く前に、幼稚園の様子や雰囲気を知りたい	4	3	2	1
2. 子どもの様子を直に知りた	4	3	2	1
3. 幼稚園の様子を直に見たい	4	3	2	1
4. 観察実習が不安だ	4	3	2	1
5. 自分が笑顔で子どもと一緒に活動出来ると思う	4	3	2	1
6. 子どもと一緒に活動する事が楽しみだ	4	3	2	1
7. 子どもの前で指導してみたいと思う	4	3	2	1
8. 自分が子どもの前で働いたり言葉をかけたりする事が、具体的にイメージ出来る	4	3	2	1
9. 授業で学んだ事を幼稚園で実践したい	4	3	2	1
10. 事前に配布された指導案を見て、内容が理解出来る	4	3	2	1
11. 事前に配布された指導案で、指導者の視点が理解出来る	4	3	2	1
12. 体育ノートの書き方が分からない	4	3	2	1
13. 幼稚園へ行くのが楽しみだ	4	3	2	1
14. 現場(幼稚園)に行くという構えが出来ている	4	3	2	1
15. 大学での授業が、現場でどのように応用されるか知りたい	4	3	2	1

図1 授業実施前のアンケート

学級番号 ()

このアンケートは、大学付属幼稚園で授業を実施するにあたり、皆さんの考えなどをお聞きし今後の授業に役立てようとするものです。回答する事による不利益は全くありません。思うところを素直に回答してください。

当てはまるものに○をつけてください。 **Q1** あなたは何を担当しましたか？

1. はとばっば体操 2. あいうー 3. ばわわが体操 4. おおあみさん 5. しっぽとり鬼ごっこ

Q2 あなたは指導者役をしましたか？ **1**. した **2**. してない

Q3 次の設問について、あなたはどうのように思っていますか。当てはまる番号(4～1)を○をつけて下さい。

	4…とても思う	3…思う	2…あまり思わない	1…全く思わない
1. 幼稚園の様子や雰囲気を感じることができた	4	3	2	1
2. 子どもの幼稚園での様子が分かった	4	3	2	1
3. 実習への意欲が高くなった	4	3	2	1
4. 観察実習が不安だ	4	3	2	1
5. 自分が笑顔で子どもと一緒に活動する事ができた	4	3	2	1
6. 子どもと一緒に活動する事が楽しかった	4	3	2	1
7. (今後)子どもの前で指導してみたいと思う	4	3	2	1
8. 自分が子どもの前で、思ったように働いたり言葉をかけたりする事ができた	4	3	2	1
9. (今後)授業で学んだ事を実践したいと思う	4	3	2	1
10. 幼稚園での授業終了後は、指導案を見て内容が理解できた	4	3	2	1
11. 幼稚園での授業終了後は、指導者の視点が理解できた	4	3	2	1
12. 幼稚園での授業終了後は、体育のノートの書き方が分かった	4	3	2	1
13. もう一度、授業で学んだ(授業で指導)についてみたいと思う	4	3	2	1
14. 現場(幼稚園)に行くという構えが具体的な理解できた	4	3	2	1
15. 大学での授業が、現場でどのように応用されるかわかった	4	3	2	1

Q4 実際に子どもたちの前に立ちあてて、気づいた事がありますか？

Q5 今回の授業で経験した内容から、どの様な事が今後の実習で活かせると思いますか？

Q6 観察実習までに、自分がすべき事は何かと思いますか？自分の課題を具体的に書いてください。

Q7 大学の授業で、今後どのような事を学びたいですか？

図2 授業実施後のアンケート

3. 統計処理

アンケートの同項目における授業実施前後の比較では、Wilcoxon の符号付き順位検定を用いた。授業実施後のアンケートにおける指導者役の実施と他の項目との関係では、Mann-Whitney 検定を用いた⁶⁾。なお、統計処理には統計用ソフトウェア（SPSS 17.0J for Windows；SPSS Japan Inc.）を用い、有意水準は全て 5%未満とした。

Ⅲ. 結 果

今までの幼稚園訪問経験（実施前のアンケート；Q1）は、行った事がないが 20.9%，職場体験で行ったが 68.2%，その他が 10.8%であった。実習への意欲が強くなったか（授業実施後のアンケート；Q3-3）では、とても思うが 90.5%であり、思うが 9.5%であった。

4 件法で問うている設問項目について、第 4 項目から第 15 項目について授業実施前後で比較したところ、第 6 項目（子ども一緒に活動することが楽しみだ）、第 14 項目（現場に行くという心構えが出来ている）および第 15 項目（大学での授業が現場でどのように応用されているか知りたい）では、有意な変化は認められなかった（順に $P=0.068$, $P=0.18$, $P=0.881$ ）。第 4 項目、第 5 項目および第 7 から第 13 項目では、全項目について有意な変化が認められた（全て $P < 0.01$ ）。しかし、第 9 項目では負の順位が 74 例、正の順位が 10 例、同順位が 63 例であり、同様に第 10 項目では、負の順位が 99 例、正の順位が 8 例、同順位が 38 例でありネガティブな結果であった。具体的な変化を図 3 から図 10 へ示した。次に、授業実施後のアンケートについて、指導者役の実施と 4 件法で問うている設問項目について順位和検定を実施した結果、第 3 項目（実習への意欲が強くなった）、第 6 項目（子どもと一緒に活動することが楽しかった）および第 7 項目（子どもの前で指導してみたいと思う）について、両項目間で有意な関係が認められた（順に $P < 0.05$, $P < 0.05$, $P < 0.001$ ）。それぞれの分割表を、表 1 から表 3 へ示した。

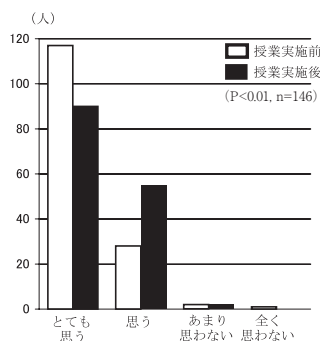


図3 観察実習を不安に思うか(第4項目)

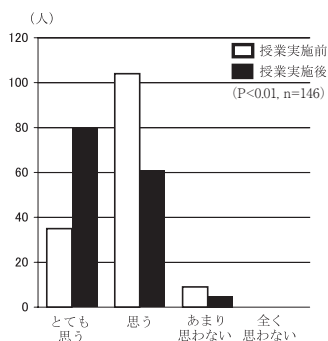


図4 笑顔で子どもと活動できると思うか(第5項目)

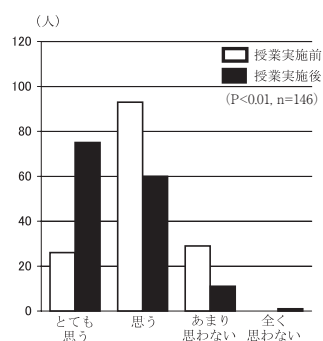


図5 子どもの前で指導したいと思うか(第7項目)

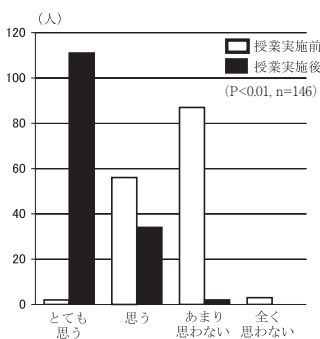


図6 子どもの前で動いたり言葉をかけたりすることができと思うか(第8項目)

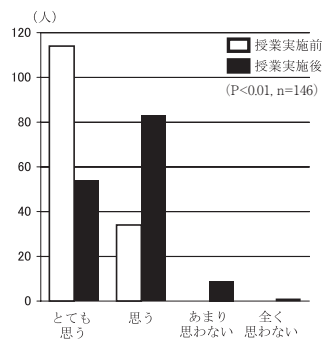


図7 授業で学んだことを幼稚園で実践したいと思うか(第9項目)

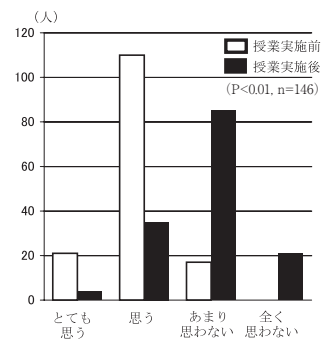


図8 事前に配布された指導案をみて内容が理解できたと思うか(第10項目)

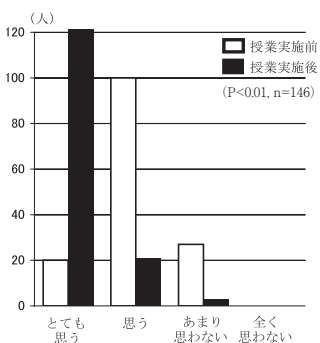


図9 指導者の視点が理解できたと思うか(第11項目)

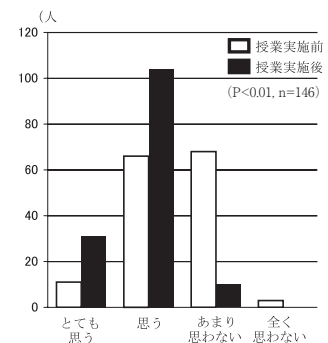


図10 体育ノートの書き方がわかったと思うか(第12項目)

表1 指導者役の実施と実習への意欲との関係

		実習への意欲が強くなったと思うか			合計
		あまり思わない	思う	とても思う	
指導者役をしたか	はい	1	3	16	20
	いいえ	4	58	64	126
合計		5	61	80	146

 数値は人数，漸近有意確率 $P < 0.05$

表2 指導者役の実施と子どもと一緒に活動することとの関係

		子どもと一緒に活動することが楽しかったと思うか			合計
		あまり思わない	思う	とても思う	
指導者役をしたか	はい	0	1	19	20
	いいえ	2	33	92	127
合計		2	34	111	147

 数値は人数，漸近有意確率 $P < 0.05$

表3 指導者役の実施と子どもの前での指導との関係

		子どもの前で指導してみたいと思うか				合計
		全く思わない	あまり思わない	思う	とても思う	
指導者役をしたか	はい	0	0	3	17	20
	いいえ	1	9	80	37	127
合計		1	9	83	54	147

 数値は人数，漸近有意確率 $P < 0.001$

Ⅳ. 考 察

当科は，短期大学であるため1年次より専門教育科目が配置されており，また，入学して3か月弱で付属幼稚園における観察実習を実施している。当科は，このような特性を有しているので，学生の学業に対する動機づけを可及的速やかに図ることは，4年制大学以上に重要であると思われる。今年度より当科と付属幼稚園との人事交流が行われた。これを好機と捉え，前述の課題へ対処する方策の一つとして，付属幼稚園において幼児体育Ⅰの授業を実施した。

本研究では，主にその学習効果を調査するため，付属幼稚園での授業実施前後でアンケート調査を行ったが，多数の項目で授業実施後に順序尺度の回答において正の順位が有意に増加し，付属幼稚園での授業実施は学習効果が上がっているものと思われた。さらに，近年では中学校や高等学校での職場体験等で，幼稚園などを訪問する機会が増えていると思われる。また，当科へ入学する学生は，ほぼ全員が保育者を目指している。しかし，そのような中で，幼稚園の訪問経験がない者が20.9%にも上がっていることは，筆者らにとり少し予想外であった。このことから，教育実習以外で幼児教育現場である付属幼稚園を訪問し，付属幼稚園側と連携しながら幼児体育Ⅰの授業を幼児教育現場で実施することの意義は十分にあるものと思われる。また，観察実習に対するイメージについても，幼児体育Ⅰの授業を付属幼稚園で実施したことで，「とても不安に思う」の割合が117人から90人へ減少している。

観察実習は，当科で実施している付属幼稚園での教育実習の中でも，学生および付属幼稚園の

双方にとり非常に負担度の高い実習と言われている。その理由は、期間は3日間と他の実習と比較すると短期間であるが、高等学校を卒業したばかりの1年次生と幼児教育現場である付属幼稚園との間には、大きなギャップがあるからである。そのギャップを多少でも緩和する方策の一つとして、今回のプログラムは有効に機能したのではないかと思う。

しかし、「子ども一緒に活動することが楽しみだ」、「現場に行くという心構えが出来ている」、「大学での授業が現場でどのように応用されているか知りたい」では、有意な変化は認められなかった。さらに、「授業で学んだことを幼稚園で実践したいと思う」、「事前に配布された指導案をみて内容が理解できたと思う」では、ネガティブな結果を得た。このことは、今回のプロジェクトが初めての試みであり、十分な検討の上で進められなかったこともネガティブな結果を招いた一因であると思っている。また、授業の中では幼稚園のクラス担任に代わって学生が指導者役を担っているが、指導者を体験した者は体験しなかった者と比較し、実習への意欲が強くなるなどポジティブな結果を得ている。このことから、今後このプログラムの内容をより吟味し、さらに学生が指導者役を経験する機会を増加させることなどが必要であると思っている。

幼児教育現場と保育者養成を行っている大学との共同プロジェクトに関する先行研究では³⁾、「大学と地域の幼児教育現場が協力して現場の子どもたちと触れ合い・交流することにより、学生の動機付けや自己実現の明確化、現職の保育者の資質向上に寄与することが期待されている」と述べている。また、大学とその付属幼稚園とのコラボレーションに関する先行研究⁶⁾では、学生の学びについて有効であったことが述べられている。しかし、このような先行研究は散見されるものの多数ではなく、また他に報告がなされていても多くの場合事例研究⁷⁻¹¹⁾である。それは、このようなプロジェクトを実施するためには、幼児教育現場と保育者養成を行っている大学が綿密に連携し、なおかつ相互にメリットを享有できないと一過性に終わり継続的な活動とならないからであると思われる。また、研究の検証方法についても、客観性を十分に担保する手法を導入することは容易ではない。これは本研究も同様であり、学習効果の検証方法やアンケート内容、付属幼稚園での学生の学び¹²⁾など更なる検討が必要であるとともに、付属幼稚園と当科で相互にメリットを享有しこのプログラムを継続させて行けるよう、検討を重ねる必要がある。

V. 文 献

- 1) 村石理恵子, 井口真美, 加藤富美子他: 個人差に応じた個別教育実習プログラムの開発, 東京学芸大学附属学校研究紀要, 32, 2005, 49-67
- 2) 文部科学省: 教員養成審議会第一次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」, 1997
- 3) 文部科学省: 中央教育審議会「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」(答申)について, 初等教育資料, 12月臨時増刊, 2005, 22-44
- 4) 高橋哲郎, 富永 築, 中村愛実: 幼児教育現場と連携した実践的な保育者養成のプロジェクト (I), 精華女子短期大学研究紀要, 32, 2006, 1-14
- 5) 高橋哲郎: 幼児教育現場と連携した実践的な保育者養成のプロジェクト (II), 精華女子短期大学研究紀要, 2008, 34, 1-10
- 6) 内田 治: すぐわかる SPSS によるアンケート調査・集計・解析, 東京図書, 東京, 2008, 150-155, 182-186
- 7) 長谷川勝久, 加藤尚裕, 白瀬浩司: 学生の保育実践に必要な技能の習得をめざした体験型学習プログラムの開発 (その2) 電子紙芝居の制作と上演活動を通して, 九州女子大学紀要人文・社会科学編, 433, 2007, 49-61
- 8) 加藤尚裕, 長谷川勝久, 白瀬浩司: 学生の保育実践に必要な技能の習得をめざした体験型学習プログ

ラムの開発（その1）「親子触れ合い教室」の活動を事例として，九州女子大学紀要人文・社会科学編，431，2006，35-49

- 9) 岩本廣美，前田喜四雄，比留間みどり他：保育参加による大学授業の改善—附属幼稚園との連携による「幼児と環境2」の実践を通して—，教育実践総合センター研究紀要，14，2005，157-169
- 10) 村田陽子，佐藤登：保育内容の研究3 幼稚園での学生の保育実践，日本保育学会大会研究論文集，44，1991，698-699
- 11) 戸潤幸夫：幼児の創造性の広がりと学生の学び—幼稚園児と学生のコラボレーション活動実践事例を通しての考察—，人間生活学研究，1，2010，53-63
- 12) 中野圭祐：大学4年間の総合的実習プログラムの開発—教育現場における学生の学習経験の整理と構造化—，東京学芸大学附属学校研究紀要，37，2010，67-77

注) 本論文では，付属幼稚園を安田女子大学付属幼稚園，幼児教育現場を一般的にいう幼稚園という意味で用いている。

[2012. 9. 27 受理]